

「とにかく何かやってやろうという気持ちで飛び込んだ世界が車業界」

私の起業のきっかけは、いずれ両親の介護をする必要が出てくるだろうし、自分で自由になる時間が必要になると、思ったからです。18年前に、ラーメン屋さんやコンビニエンスストア、健康食品会社、携帯電話の仕事などの紹介を受け、いろいろ悩んでいる時にある方から車買取専門店のガリバーを経営してみないかというお誘いがありました。その時、ラーメン店をやる根性はないし、コンビニをやるほど性格がマメではないし、健康食品はブームがあるし、携帯電話店はちょっと難しそうだなとあれこれと考えました。



インタビューを受ける伊藤安子さん

そのような状況の中で、車買取専門店ガリバーだけは、やっている自分のイメージができなかったのです。私自身、車業界に全く携わっていなかったので雲をつかむようなお話でした。まず当時、本社があった福島県に行って、現在会長をやられている羽鳥社長とお会いして、何かそこで通じるものがあり、「人生をかけてみよう」と考えました。

私自身、車はただ好きということだけで、車の事も業界の事も全く知りませんでした。私が「車屋をやる」と言ったときに、周りの人達は、びっくりしていました。

普通は、ある程度イメージが出来て飛び込んでいくのでしょうかけれど、当時それがまったくありませんでした。私の場合は、あまり考えずにこの世界に飛び込んでしまったのです。迷いというよりも、何かやってやろうという気持ちが強かったですね。現に多くの方がやっていることだから、私にもできるのじゃないかと。今、考えると無謀ですよ。

オープン当時は毎日が手探りの状態だったので、楽しい日々でした。店をオープンしてからは、毎日が事件の連続のような感じでした。

お客様にもいろいろ教えて頂いたり、周りの方達に助けて頂いたりして今日に至っている感じです。実は、オープンしてから今年がちょうど15周年になります。その間、いろんなことがありすぎて、一冊の本が書けるぐらいです（笑）。

仕事のモチベーションを保てた理由は、一番はやっぱり子供がいたからですかね。自分のせいで片親になってしまったので、子供にはみじめな想いをさせたくない。それが一番根底にありました。私は、自分ひとりでは何もできないので、いろんな方達が支えてくれ

たという事が大きかったですね。後になって知ったのですが女性が車買取専門店を営
るということで、羽鳥会長はじめ、スーパーバイザーの方達はとても不安だったよう
です。今日まで支えて下さって本当に感謝しています。

私の今の社名である「T・M・Y」というのは、会社の経営方針の頭文字で、**Total、Media、Yields** つまり全ての媒体を通じてお客様や社員にも実りをもたらす、という意味がこめられているんです。

会社の中では、人の癖を全員でフォローして良くしていこうという雰囲気を持たせるようにも心がけています。それから、ミーティングは毎日行っています。月に1回第1水曜日には、2店舗合同での勉強会も行っています。こういう会の中で、会社でのコミュニケーションを活発に行うように心がけています。

「浜松の女性は、やっぱり元気！」

私は、東京に1度住んでいましたけど、あとはずっと浜松に住んでいます。私が思うには、浜松の女性は、やっぱり元気ですね。一方で浜松って意外と昔から男性社会で、女性の元気が空回りしているところもあると感じています。

今年の9月18日の会議所女性会のイベントでは、地域のための活動を地道に行っている女性に是非スポットをあてたいと企画しました。



代表者が女性であり、浜松地域で社会貢献活動（自然保護、子供の健全育成、子育て支援、福祉、まちづくり、環境問題等）をしている団体、個人様の活動・思いを地域住民

企業等に広く知ってもらおう事業です。本イベントでの出逢いにより、活動認知のみならず地域における新たな起業、雇用機会創出とともに地域住民の生きがいや充足感を発掘して地域活性化に役立てていけるお手伝いが出来たらと思っています。

浜松の元気な女性が集って、より元気な地域にしていきたいです。

「今日より明日、明日よりあさってが良い日になればいい」

やっぱり女性は、輝きやなきや損ですよ。輝くために、どうやって毎日を過ごしていくか、今日より明日、明日よりあさってが良い日となっていくように心がけています。そうすることで、自分だけでなく、周りの人やお客さんも良くなっていきます。だから、マイ

ナスのイメージとか、マイナスの気持ちを持つと損だと思います。それから、やってもいないのに、「できません」ということを言うてはいけないと思うし、やってみて、できなかつたらしょうがないと思います。出来る方法を考えて再チャレンジすれば、いい経験にもなりますね。

自分自身は、とにかくやってから考えるという性格です。いろいろ考えてから、行動にうつすタイプではないですね。でも、失敗を恐れて、行動しないより、行動して失敗したら、次の方法を考えればいいと思っていますし、それが私のポリシーです。

今のガリバーの仕事をやってみて、成功しているかと言われたら、それは私にはわかりません。よく、成功していると言われますが、まだまだ成功というイメージはありません。平成17年ぐらいに倒産しそうな大変な時期がありました。商売しているといろんな事が起きるのだなど、その時つくづく思いました。

「女性が頑張って、もっと浜松を元気にしたい！」

浜松の魅力は、いろんな意味で、のんびりしている所ですかね。それから、浜松は全国の真ん中に位置しているという事も魅力だと思います。人間性はやさしいし、おっとりしているし……。

でも、浜松は、今はいろんな意味でもっと頑張らないといけないと思います。

もう少し、おもてなしの気持ちがあつたらとも思います。そうすれば、もっともつと浜松の魅力はあがると思います。

まだまだ浜松には、一体感が感じられません。一体となって街を案内する雰囲気とか看板とかが不足していると思います。例えば浜松に素晴らしい音楽家たちを呼んで、街をあげて宣伝をしたりということをもっともつとやれば魅力があがってくると思います。そのためには、女性が頑張って、声をだしていかなければならないと思っています。

私も、そろそろ老後を見据えて、老後をみんなで住みやすい社会にしていくお手伝いができればと思っています。私と同年ぐらいの人達は、今、介護に走り回って、たいへんな思いをしているのが現実です。だから、こうした人達のためにも地域で助け合うというコミュニティができればと考えています。

今の日本が不安だらけです。こんな時だからこそ、女性が一人ひとり元気になって活躍してもらいたい。女性が頑張って“浜松が元気”になってもらえればと思います。



「仕事で忙しい分、子供と一緒にいる時間は大切にしていました」

子育ては、自分自身がとにかく働いている時間が長かったので、家に帰った時ぐらいは、子供と一緒に料理や掃除をしたりして、子供とはできるだけコミュニケーションを図るようにはしていました。子供とは何でも一緒に考えて、親子という意識ではなく、子供と友達感覚で子育てをしてきました。だから子育てが楽しくできました。

もちろん、両親や親戚、近所の方たちの支援も沢山ありました。本当に感謝、感謝です。現在、育児放棄とかいろいろな社会問題が出ていますが、昔の様な助け合いの文化が希薄になっているせいでしょうか？

今まで助けていただいた方たちへの、恩返しとして将来は助け合いのコミュニティ作りが出来たらいいなと考えている今日、この頃です。